

教材・支援機器活用実践事例フォーマット（小中高版）

	実施年度	平成27年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	「カードを集めよう」	
	授業における教師のねらい	○状況に応じた要求表現や拒否の仕方について言動の取り方の向上 ○情報の整理と計画力の向上	
	授業における子どもの目標	○必要なカードが分かり、友だちと場面や相手に応じた言葉に気をつけながら、コミュニケーションして集めることができる。 ○手元のカードを整理し、自分が何を集めるのかを考えて取り組むことができる。	
子どもについて	学級・学校・学年	通級による指導（自閉症通級指導教室） 小学生 低・中学年	
	対象の障がい （種別・診断名等）	広汎性発達障がい	
	授業形態	小集団学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	自分がやりたいことや欲しい物があつた時に、黙っていたり、自分の気持ちと反対の要求に応じたりして、本人が後からストレスを感じていることがあります。 コミュニケーションの部分での向上が必要である。また、計画立てて考えることも苦手な様子が見られます。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	コミュニケーションを育む教材 「絵カード」 「文字カード」	【画像】
	活用のねらい	○本人が「～を集めよう」と意欲や必要感がある中で、実際的な場面でコミュニケーションの練習ができる。 ○コミュニケーションの際に、話し掛ける人が話している時は、割り込まずに待っているなどの行動面でのルールを学ぶことができる。 ○手元のカードを整理し、自分が何を集めるのか、活動前にいったん行動をプランニングする力を養うことができる。	
授業における支援 ・教材の配慮事項		○やりとりで使う言葉を事前にロールプレイ等で確認し、ホワイトボードに記入して、本人の手掛かりとなるようにする。 ○学年等に応じて、絵、文字だけなど、使用するカードを変えて行う。	
子どもの変容や評価		<p><このような意図的な活動を継続の結果></p> <p>怒って、叩いて物を要求していたり、友だちと会話が難しい状況にあった児童でしたが、担任から「自分から話し掛けて、3往復ぐらいの会話をしていました。（自分から話し掛けて、会話になっているのは、すごいです!）」「ごく自然に『ぼくトイレに行ってきたま〜す。』と言うのを聞いて、その自然さに成長を感じました。」など、学校生活での変容も見られました。また、家庭でも、学校のことを話すようになったようです。</p> <p>今では、自分で友だちを誘って学校から帰ることがあるようです。</p>	